

朝日診療所新築から10年

地域の医療を守り支えるために

私たちができること

今年の8月で朝日診療所が新築されてちょうど10年を迎えました。

この10年間で医療を取り巻く情勢は大きく変化し、医師不足、看護師不足は全国共通の問題となりました。都市部の大きな病院でさえ適切な医療体制の維持が困難になり医療従事者の負担は急激に増加しています。

只見町も過去に医師が不在となる時期があり、診療所が休診となってはじめて、多くの町民の方が身近に医療機関があることの大切さに気付かれたことと思います。

これからも只見町の医療を守るため私たちにできることは何か……。朝日診療所の医療を支えるために私たちにもできることがあるのです！

朝日診療所新築からちょうど10年というこの時期に、過去の出来事や朝日診療所の医療の現状を知り、生活に身近で大切な地域医療について考えてみましょう。

想像してみてください

もしも町内に医療機関が

なかったら……

朝日診療所

平成15年

朝日診療所 存続の危機

朝日診療所は昭和57年に開設されて20年間北里大学から医師の派遣を受け、常勤医師2人体制で診療を行ってきましたが、平成15年10月以降は北里大学側の事情により医師の派遣ができなくなりました。町では医師の確保に努めましたが、成果をあげることが難しく、当時朝日診療所長の目黒医師1人体制となっていました。只見町の医療を支えるためには4人体制でも大変なところ、目黒所長1人で昼夜や休日を問わず献身的な診療に当たっていただきましたが、ついには過労で入院され、同年11月4日からは当分の間「休診」となりました。

このことは、「診療所に行けばいつでも医師に診察してもらえ」と思っていた多くの町民の考え方を変えました。

只見町の医療の深刻な事態を解決するため、休診から2日後の11月6日「奥会津の医療を求める緊急町民大会」が開催されました。大会では近くで医療を受けられる事の大切さが訴えられ、町民一丸となって問題を解決する事を誓い署名運動なども行いました。この様子が新聞やテレビで大きく報道された事で、多くの方から協力をいただき、診療所に医師が派遣される事となり12月2日からは朝日診療所が再開され町民の不安も一時的にですが解消されました。

平成16年

医師不足の解消に向けて

テレビ、新聞などで大々的に只見町の医療の状況が報じられた事で、県は医師不足に悩む中山間地に安定的に医師を供給するシステムを構築することになりました。また、新聞報道で医師を求めているという事を知った八巻医師が朝日診療所に着任され、目黒所長も復帰されることになり、医師2人体制に戻りました。多くの町民はこの事を喜び、只見町で医療が提供されるよう支援してくださった近隣町村はじめ全国の皆さんに感謝すると同時に、「これからも安心して医療を受けられるよう自分たちにできることをしていかなければならない」とこの時考えたはずです。

平成17年

朝日診療所の新築

朝日診療所の老朽化が進んできたことと遠隔医療支援システム、へき地診療支援システムなどを導入して地域医療を充実させるため朝日診療所が新築されました。平成17年7月29日に開所式が行われ、新しい只見町の医療施設を心待ちに待っていた町民など約200名が施設を見学しました。当時の最新設備であった遠隔医療システムを使って会話を体験するなど多くの町民が新しい診療設備に驚き、只見町での医療体制の充実を喜びました。



▶平成15年の緊急町民大会は、現在の朝日振興センターで開かれ、会場には900人を超える町民が詰めかけ、ホールには入れなかった人たちは、廊下や外で大会にのぞみました。

平成27年度

朝日診療所の現状

医師体制について

4月から朝日診療所は常勤医師4人体制で診療を行っており、毎月2回は南会津病院から整形外科の先生にも診療に来ていただいています。

また今年度は、地域医療を学ぶ意欲を持った研修医8名が1ヵ月ずつ、朝日診療所で外来診療や訪問診療などを行い、医学生も実習のために朝日診療所に勉強にきました。医学生は卒業後に研修医としてまた朝日診療所を訪れるケースも多く、朝日診療所は地域医療を学ぶことができる医療機関として知られています。

平成26年度の朝日診療所は、医科が1日平均で約72人、年間約18,000人の患者さんを診療しており、土日や祝日などの休日も年間約500人の患者さんを診ています。

また、歯科は1日平均で約25人、年間約5,600人の患者さんの



▲歯科治療は子どもからお年寄りまで親切丁寧にしています。

治療などを行っており、平日の日中治療を受けられない患者さんのために毎週火曜日は夜間診療も行なっています。

診療所では どんなことができるの？

検査では、今年度から胃カメラ検査を再開しました。また、CT装置を今年度更新する予定で、これによ

りさらに詳しい検査が朝日診療所で行えるようになることも、検査時間も短くなり患者さんの負担も軽減されます。今後は心臓の超音波検査なども診療所で実施したいと考えています。

治療では、実は診療所には小児科診察をできる医師が3人いますので、遠くの小児科病院に行かなくても、アトピー性皮膚炎やぜんそくなど困った事は治療や相談にのる事ができます。この他にも健康診断結果の相談や、禁煙外来、糖尿病や高血圧、コレステロールの薬をもらうなど特別な疾患でなければ遠くの病院に通わなくても朝日診療所でもしっかりとした診察や治療を行うことができます。

これからの課題

全国的な問題ですが、朝日診療所も看護師の確保が課題となっています。

有床診療所なので看護師は日中の勤務のほか夜勤もありますが、今後看護師の人数が減ると、今の体制を維持していく事は難しくなってきました。

なんでも相談してもらえる診療所を目指して

診療所に行けば、どんな病気の事も相談にのってもらえる、患者さんに安心感をもってもらえる。そんな診療所にしたいと考えています。

診療所のスタッフは、日々医療の勉強を行い新しい知識を身につけています。また、近隣の医療機関との連携もしていますので、診療所に対応できない場合でも治療ができる病院を紹介します。まず何かあれば診療所を頼って来てください。



朝日診療所 若山 隆 所長

これからも

地域の医療を守るため 私たちにできること

只見町の医療をこれからも守っていくには、行政の取り組み、医療従事者の努力、そして診療所を利用する町民の皆さんの取り組みも大切です。皆さんの取り組みで地域の医療を守っていきましょう！

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは、日常的な診療だけではなく、自身の健康について何でも気軽に相談できる医師のことです。もしも病気になった場合は非常に心強い存在で、入院や詳しい検査が必要な時には、適切な治療を受けられる病院を紹介してくれます。また、紹介された病院での検査や入院治療が終わつてからは、かかりつけ医で引き続き治療や経過を診てもらうことができます。

朝日診療所は一番身近な医療施設で医師も親身になって相談にのってくれますので、ぜひ朝日診療所を皆さんのかかりつけ医にして欲しいと思います。

コンビニ受診はやめましょう

平日の日中に受診できるのに、「混んでいて待ち時間が長いから」「買い物に出かけるから」と自分の都合で外来の診療を行っていない休日や夜間などの時間外にまるでコンビニエンスストアに行く感覚で気軽に受診することをコンビニ受診といいます。

このコンビニ受診は一刻を争う重症患者さんの受入や、入院中の患者さんの急変に対応することができなくなる原因になる場合があります。

また、医師の過労の一因にもなり得



▲診察では皆さんの相談にしっかりと対応します

日の診療に支障が出ることも考えられますので、只見町の緊急医療体制を守るためコンビニ受診はやめましょう。

なお、診療所では急患は随時対応していますので、診療時間外に急に体調が悪くなったり、ケガをした場合は、まずは診療所まで電話で連絡をしてください。(☎84-2221)

健康づくりに関心を持とう

田舎で不便なところでも医師がい

る場所は、健康診断の受診率が高く日頃から健康づくりの意識が高いところという事例があります。一人ひとりが日頃から健康づくりに取り組むことで医師の負担を少なくすることができるところです。

広報ただみでも、毎月健康や病気に関する記事を診療所医師が執筆し掲載していますが、季節ごとに多い病気などの予防法などがとても分かりやすく書かれています。

まず皆さんには、日頃から健康づくりに関心を持つことから始めてほしいと思います。そして、もし病気になるたらどうするかなど家族での話し合いもしてみましよう。

感謝の気持ちを伝えましょう

朝日診療所で働いている医師や看護師、事務の皆さんは只見町の医療を支えるため一生懸命に働いています。診察を受けた後や会計が終わった時などぜひ「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてみて下さい。

感謝の気持ちは診療所で働く人達の力になります！